

信州新町犀川物語

犀川の流れとともに

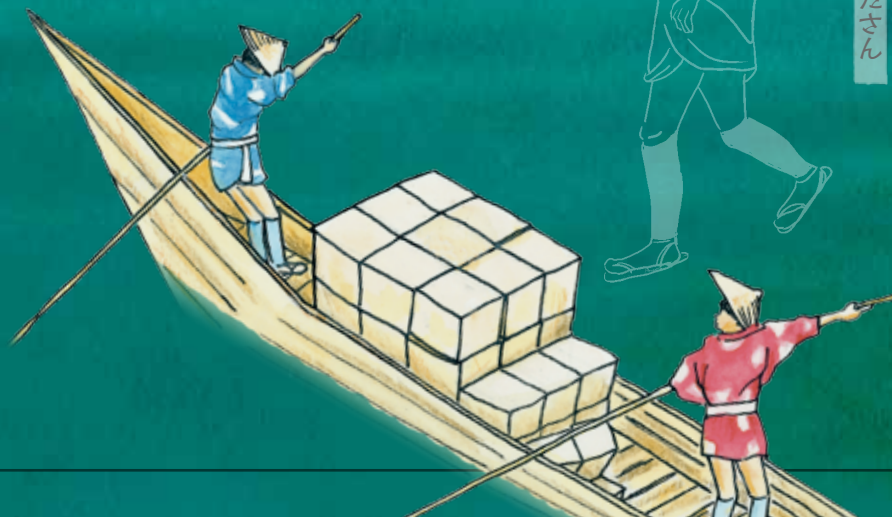
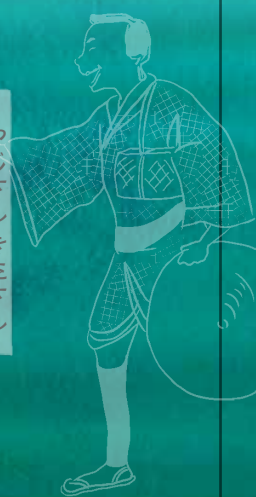
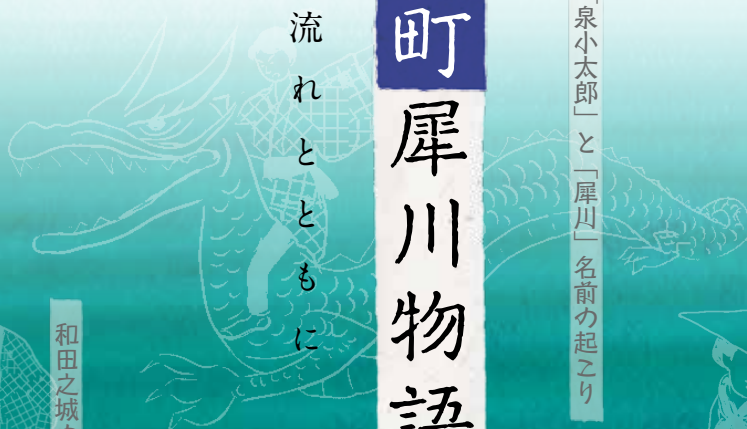
久米仙人とお新

「泉小太郎」と「犀川」名前の起り

やじさんきたさん

和田之城の埋蔵金

十六間の親父と天狗



犀川の流れとともに

多くの旅人が行き交い、

様々な文化が交差した信州新町。

現在も歴史と伝統に繋がる文化が息づく。

その歴史の流れは

たゆまず流れる犀川の水とともに

p.2

新町犀川物語
下流の章

p.4

新町犀川物語
中流の章

p.8

新町犀川物語
上流の章



新町竹房間の渡船

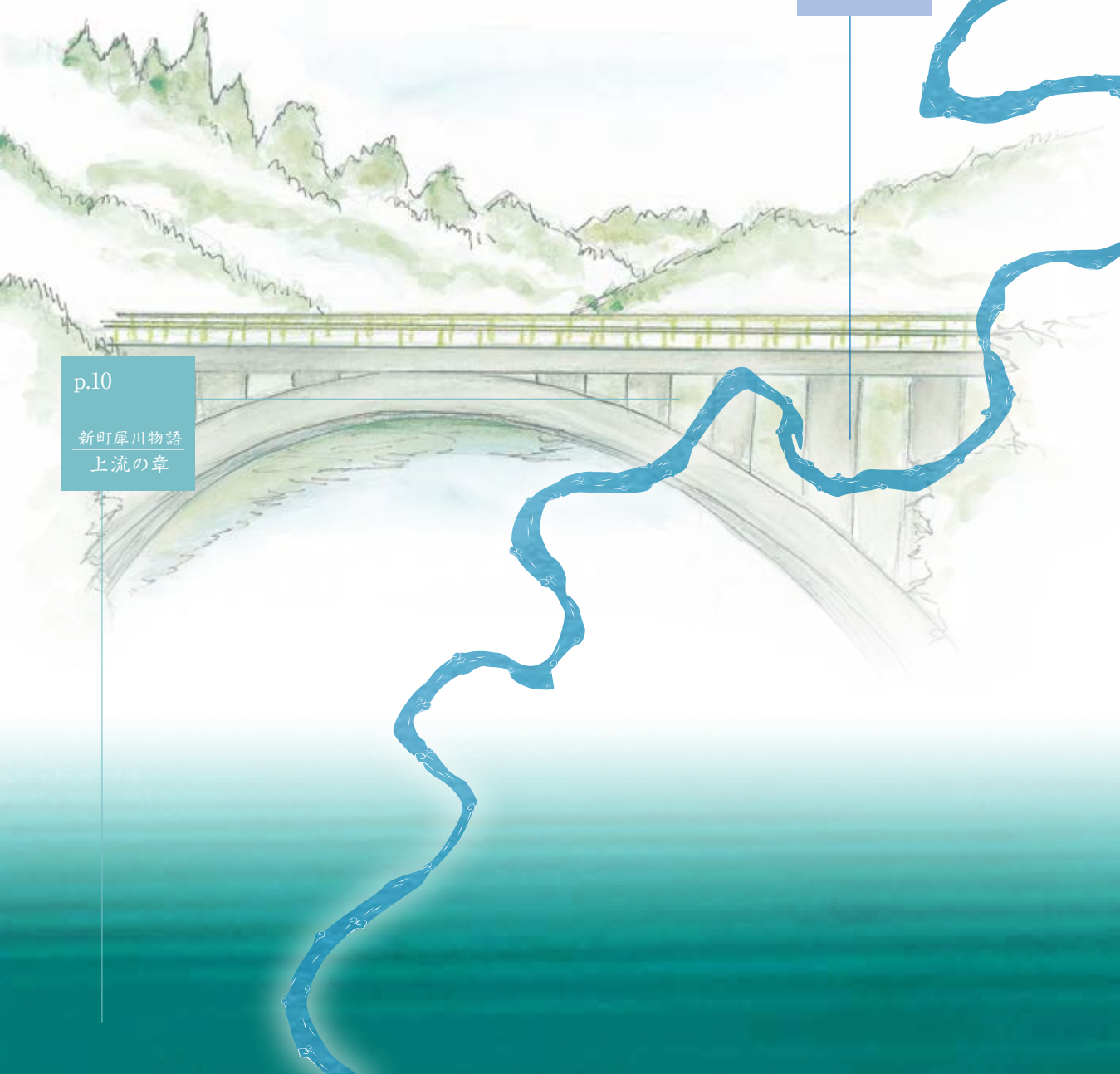
江戸時代初期、徳川家康の六男、松平忠輝が領主だった慶長12年（1607）。家老花井遠江守吉成が「穂刈新町に市立（市場をつくること）を許す」とし、九斎の市が成立。松代、長野方面から西方地域に当たる西山中地方では一番栄えた山間の商業の町となりました。

新しくて古い町「信州新町」

通船区間は松本から新町まで。新町より下流には「弥太郎の滝」など巨岩がある難所が多く、船が通れませんでした。新町まで送られた荷物は全てここで降ろされ、そこから善光寺方面や篠ノ井、稲荷山方面に運ばれていました。こうして犀川通船は商業の町「新町」の発展に重要な役割を果たし、信州新町の商人たちは「新町商人」と呼ばれました。

p.10

新町犀川物語
上流の章





新町犀川物語
下流の章

久米路峽にかけた 夢と希望の架け橋

県歌信濃の国にも歌われている
景勝地としても知られる久米路峽。
絶景の地には、人々の願いが架けられています。



新町むかしばなし

久米仙人とお新

むかし久米仙人が仙術を学んで、ふる里の空を飛行していた。ふと下界に目をおとすと二人の美しい娘が犀川で洗濯をしていた。日ざしを受けて光る長い黒髪を無造作にたばねて、一心に洗う娘の衣裳のすそがみだれて白い美しい脛がみえた。

その白い脛を見たとき、久米仙人は飛行する神通力を失って地上に墜落した。そこで久米仙人は普通の人間になって、その娘と結婚した。娘の名前はお新と呼ばれた。久米仙人は、人間久米となつて犀川に橋を架けて久米路橋と名づけた。

信州新町史 下巻より引用



道の駅
信州新町
味わい処



道の駅 信州新町



信州新町の野山の幸が同じ集まる、道の駅信州新町。作り手の想いが込められた手作りの農産物加工品などが魅力です。信州の郷土食である「おやき」や評判のそば処もあり、信州新町の味覚を存分に味わえます。

おふくろの味が楽しめる最高のおもてなしが、ここにあります。

久米路橋の歴史

往古神仙降りて架橋したという橋は、犀川の両岸絶壁に架かる様から誰が言うともなく「久米路橋」と呼ばれてきました。すでに、江戸時代には松代藩領内第の大橋にして名橋だった橋は、その形状が曲尺に似ていたことから「水内の曲橋」、「撞木橋」とも言われていました。「水内橋勸進帳」によると慶長16年（1611）里人香坂宗広、塩入安貞、新井直盛ら三人が勸進元として架橋したと記されています。

以来400年間、天下の名橋・奇橋として広く文人墨客が訪れる所となり、多くの詩歌に詠まれ、絵画に描かれてきたのです。

そうして様々な思いと努力により架けられた橋は、江戸時代を通じて現在に至るまで、歴史的、地理的そして政治・経済的にも重要な役割を果たしてきました。

勝海舟歌碑

久米路橋の傍に立つ勝海舟の歌碑は水内村（信州新町）安用の竹村通が苦心奔走の末、寄付金を募り建立したものです。



久米路橋

こんにやく

地場のこんにやく芋を原料につくっています。こんにやくはもちろん、生の芋も販売しています。



そば

道の駅 信州新町のそばはメディアにもよく取り上げられる有名店。信州食の祭典で金賞を受賞するなど、その味は折り紙つき。ぜひ一度味わってみてください。

西山大豆・大豆製品

「西山地方」と呼ばれる長野市西方の山間エリアで産する良質な「西山大豆」。豆の味が濃く、様々な料理や加工品があります。



通は、明治11年に明治天皇が北陸御巡幸をなされた際に、県の役人が長野県を代表する景勝地として久米路橋の説明を天皇にされたことを聞き及び、県を代表する景勝の地でありながら、橋には何の碑石のないことを残念と、「急発起しました。明治15年に東京に出て以前から知友のあった勝海舟のもとを訪ね碑文を請い、併せて揮筆をお願いし持ち帰ったのです。

しかし、いざ碑を建てる段階になると資金が底をつき、やむなく建立前の碑文を拓本にとり、資金を調達。明治26年頃にようやく現地に建立されました。

「泉小太郎」と「犀川」名前の起こり

その昔、今の松本・安曇野平野は満々と水をたたえる大きな湖であった。湖には「犀竜」という女の神様が住み、湖のはとりには「白竜」という男の神様が住んでいた。やがて二人は結ばれ、生まれた子どもは「泉小太郎」とよばれた。小太郎が生まれてまもなく母親の犀竜は自分の身が竜であることに案じ湖深く身を隠してしまつた。松本の放光寺山付近で育てられた小太郎はやがて母親を捜し求め、ようやく美しい人間の姿に化身していた母に再会できたのが島内と平瀬の境のあたり、尾入沢口であった。

母親を探す間に小太郎は「この湖の水を落としてさえすれば広い平野が現れ、貧しい人々が豊饒であろうこの土地での耕作ができ、暮らしも豊かになれる。」と思うようになっていた。再会してこのことを母親の犀竜に話すと、同じ思いをもつ可愛い我が子の願い、いったん竜の姿になれば一度と人間の姿



に戻れなくなることを覚悟して、再び恐ろしい竜の姿となり、小太郎を背に乗せ、三日三晩、大嵐を巻き起こし山清路の大岩を打ち砕き、さらに久米路の巨岩を押し開き大音響とともに湖の水を越後の大海に注いだのである。

その後、安曇野は広い平野となり、小太郎と母親犀竜が下つた川を「犀川」と呼ぶようになったといわれている。

新町犀川物語
中流の章

ろうかん
琅玕色のろうかく湖と
町を彩るアートの数々

町のシンボルであるろうかく湖。その周りには、この町を愛した芸術家の軌跡があります。

ジンギスカン

水内村において、後藤静香の主幸した希望社運動の最盛期に後藤が提唱したクラブの一つが「綿羊クラブ」。大正末期から綿羊を飼育していた小川村宮下茂郎氏に牝一頭、牡頭を譲り受けたのが始まりといわれています。水内村は養蚕が主産業で、養蚕の際に出る残渣が綿羊の飼料となっていました。採草地の少ない水内村の羊飼育として、非常に貴重な資源であったと言えます。

現在は国道19号沿いに点在するお店を総称して「ジンギスカン街道」と名付け、町の人はもちろん、観光客の皆様にも親しまれています。



屋形船遊覧

犀川ろうかく湖畔の奈津女橋付近から久米路峡を巡る約1時間の船旅が楽しめます。

10名様以上の団体様であれば貸切運行ができます。天候や犀川の状態により欠航の場合もありますので、お気軽にお問い合わせください。



信州新町美術館

戦後間もなく信州新町を訪れた洋画家・栗原信は、フランスの村々の美術館をめぐった経験から「日本中の村々にも美術館を建てたい。この地から始めませんか」と提言。昭和57年の開館以来アートの町信州新町のシンボルとして親しまれてきました。近代洋画をはじめ彫刻・書版画など、600点余の収蔵作品はすべて作家、篤志家から寄贈されたもの。常設展と年数回の企画展・特別展を開催しています。

有島生馬記念館

元々この建物は、明治23年イタリア人貿易商が鎌倉相村ヶ崎に建てたコロニアルスタイルの建物で、空屋だったものを、鎌倉で療養中の洋画家・有島生馬が魅せられ、住居として購入しました。通称「松の屋敷」と呼ばれ、生馬の没後上智大学の所有となりました。

昭和55年に建物を取り壊されると聞いた町内の有志が譲渡を受け解体し、町内外からの寄付などによりこの地に移築されたものです。この記念館には信州新町を愛した有島生馬の想いが詰まっています。

信州新町化石博物館

信州新町化石博物館は、当町出身の西沢勇さんの化石コレクション約6000点を昭和58年に町に寄贈されたことがきっかけとなり、平成5年12月に開館しました。世界中から集められた展示化石は、恐竜をはじめ、三葉虫、アンモナイトや魚類など様々な種類が揃い、まるで化石の図鑑を見ているかのような博物館です。



ろうかん 琅玕色のろうかく湖と 町を彩るアートの数々

ろうかく湖

ろうかく湖は、湖水の色が「琅玕」というヒスイに似ていること、そしてその形が鶴がまさに翼を広げ飛び立つとする姿に見えることから、有島生馬画伯が「琅玕湖」と名付けました。東京

電力水内ダムによって形成された人造湖で、犀川船遊覧やカヌーなどもでき、湖上・湖畔の両方から美しい四季折々の風景が楽しめます。



カヌー

カヌー愛好者に人気の高い犀川。緩急に富んだ流れと溪谷の美しさが魅力です。地域の高校生の練習が盛んに行われ、体験教室なども行われています。



商店街

新町商店街を記録した古い資料として菅江真澄の紀行文「久米路の橋」があります。真澄は天明4年（1784年）8月、松本から大町、左右を経て新町には8月17日に到着してここに3泊しています。その中で「19日、今日は此里の市にて、何くれと色々な物を屋の前に並べて賣う人はさくに立ちぬ」と記しています。これによると19日に市が立ったこと、市は家の前へ設けられた露店であり、商品名は分からないが色々なものが並べられて賑やかに商われていたことが分かります。山上条の旧道の分かれ道の「道しるべ」には「左水内御橋 右新町市」と並べて書かれています。新町は町であり、「市へ行く」といえば新町に行くことと称されていました。

現在も新町商店街として旧道には通船時代の商店、倉庫、酒倉が建ち、かつての賑わいをしのぶことができます。

豆腐

地元西山産大豆を使用し、昔ながらの素朴な味が楽しめます。



地酒

尾澤酒造場の地酒「美寿々錦」は、地元産の酒米「美山錦」を使用しています。

ろうかく梅園花まつり

北信地区随一の小梅の生産量を誇る信州新町。約4ヘクタールのろうかく梅園には600本余りの小梅と約30品種の紅梅が植えられており、小梅の白と鮮やかな紅色の梅花が訪れる人を華やかに迎えてくれます。春を告げる梅の花を愛でながら名物のジンギスカン料理が味わえます。

ろうかく梅園で栽培された梅を使用した梅製品も人気。梅漬けのほか、加工食品やジュースなどを開発しています。収穫シーズンには、漬物用の生梅も出回ります。ろうかく梅園花まつりは、3月下旬〜4月中旬頃、開催されます。



『かあさんの歌』の歌碑

多くの人々に歌い継がれている「かあさんの歌」は両親のふるさとに思いをほせ、懐かしんで作られたといわれます。奈津女公園に、この歌碑が建てられています。



梅、梅製品

ろうかく湖の梅園や町内産の梅を使った梅漬けのほか、梅を生かした様々な加工食品を開発しています。漬物用の梅も収穫シーズンになると出回ります。



新町むかしばなし

やじさん きたさん

「善光寺道中膝栗毛」では、弥次郎兵衛、喜多八の二人連れが大町から新町に出て宿泊、宿屋の風呂で禪を間違え詫証文を書いたり、久米路橋附近の農家でふるまわれた「もち餅の雑煮」の味におどろいたりしながら旅を続けることになっている。



築城の妙を極めた 牧之島城の遺構

大きく蛇行した犀川。
その自然を巧みに利用した知恵の産物です。



新町むかしばなし

十六間の親父と天狗

昔々いつの時代かは知らないが日名に十六間家という
たいそう大きな家があり、大変な勢であつ
たという。しかしこの大きな家には
は男主人一人しか住んでおらず、
広い田畑を耕作するに
何十人もの下男下女を使つて
いたそうである。

あるうららかな日、人々が
田畑に出て働いていると突然あ
たりが真暗に曇つて、「ウォー！今
夜十六間の親父をさらに行くぞ!!」と
大きな声が空に響きわたつたのである。
下男下女や村人は大騒ぎ。十六間の家に集
まり「今夜は一晚中起きて、十六間様を守ら
にやならぬ」とてんでに鎌、鎌を

携え、屋敷の一番奥の座敷に親父
を囲み、万全の防備をほどこ
した。さて、草木も眠る丑
三ツ時、今まで睡気などす
こしもなかった人々が、突
然吹いてきた生暖かい風にう
とうと居眠りを始めてしまつた
のである。幾時間か過ぎ、皆

眠りからさめた時にはもうお天道
様は頭の上。いもなら畑に出て「汗流
している時刻なのである。「皆の衆！十六
間様がさらわれたぞ!!」村の中は蜂の巣をつ

いた様な騒ぎとなつてしまつた。皆が思案をしている最
中、一人の男が「あれはなんだ」と大屋根を指さした。

目をやると、垂木の端に真赤な長い鼻の天狗の面がぶ
らさがっているではないか。面の中からは「十六間の親
父は天狗様があずかつた。親父を帰してはしからたら
今年から毎年お宮に莫大なお供えをしろ」という内容
の紙片がでてきたから又々大騒ぎ。

村の有力者が寄り会ひ、話し合ひの結果「天狗様を怒
らせてはまずい。お供え物さえすれば十六間様も救
われるし、私共も安心だ」と、米や魚を車に山程積
んでお宮にお供えした。その日のうちに無事十六間の
親父も家にもどり、それから一度とこんな奇怪なこ
とは起らなくなった。

信州新町史 下巻より引用



塩本の棚田

「日本棚田百選」
に選ばれた美しい田
園風景が広がる塩本
集落には、約260
枚の棚田が連なりま
す。新緑の季節に新
苗が揺れる田植え時
期の美しさや黄金色
に輝く収穫時期の秋
といった四季折々の
美しい風景が圧巻で
す。



上の平展望台

白馬岳から穂高連峰にいたる北アルプスの山並
みの眺望が素晴らしい展望スポット。星空の観察
スポットとしても人気で、初夏にはジャマンアイ
リスの花やタケノコ採りの楽しみもあります。



牧之島城址

牧之島城は武田信玄が永禄9年（1566）、
智将馬場信房に築かせたのがその始まりです。信
玄が北信濃の経略を終え、北越上杉の侵入に備え
るとともに、加えて更科・水内郡西山部の軍政の
要地として築かれたと言われています。

その後天正10年（1582）に武田氏が滅び、
北信濃のほとんが上杉景勝の支配下となりまし
た。上杉景勝は牧之島城を飯綱町の芋川親正に守
らせ、その在城期間は16年間に及びます。

慶長8年（1603）幕府は牧之島城等、領内
の計5城の受け取りを高遠城主保科正光に命じま
した。同じ領内にあった海津城を松代藩の松平忠
輝が支配することになったため、牧之島城も同様
に松平忠輝が支配することとなります。

元和元年（1615）幕府の「二国城令（武家諸
法度）」により、松代藩は領国を代表する城を海津
城と定めたことにより、牧之島城は表向き廃城と
なりました。元和5年まで、手代の織右門が在

城していました。火災
に遭い城は消失。以後城
としての機能を失い、現在
はその跡が見られるのみと
なりました。

牧之島城は舌状台地上
に築かれ、南、西、北の
三方を水量豊富な犀川が
流れています。築城の妙を
極めたこの城の形状が楽器
の琵琶に似ていることから
「琵琶城」とも称されてい
ます。



ロマン溢れる伝説から 紐解く新町の歴史

絶壁を落ちる滝と
吉凶を占う滝。
2つの滝が厳かに
あなたの訪れを待っています。

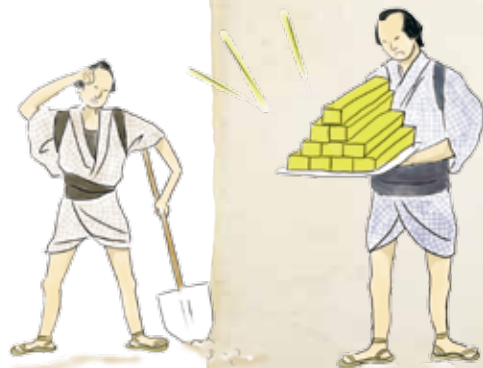
柳久保池

新町むかしばなし

和田之城の埋蔵金

和田之城周辺に「朝日さす、夕日輝くすずめのみどり……漆千倍、黄金千倍、朱千倍」という言葉が、い伝えられている。これはその昔、和田之城が落ちるとき、お家再興の為に埋蔵された金銀財宝のありかを示す暗号だということである。今でも畑を耕すと落城の際猛火につまれたことを裏づけるかの様に焼けた石を見ることが出来る。

信州新町史 下巻より引用



さざり荘

犀川湖畔にたたずむ信州不動温泉の一軒宿。日帰り温泉もあり、地元特産のサフォーク料理や手打ちそばが楽しめます。庭園には遊具やマレットゴルフ場があり、ファミリーに人気のレジャーゾーンです。食べる・泊まる・くつろぐが揃う複合施設です。

客室：全10室（和室）
食事処：午前11時～午後3時、午後5時～午後9時
日帰り入浴：午前10時～午後9時
※食事処・日帰り入浴の入場は午後8時まで
予約・お問い合わせ：TEL 026-264-2103



マレットゴルフ

町内に4箇所のマレットゴルフ場があります。それぞれに特色あるコースですので、お気に入りのコースを見つけてみては。

小花見高原マレットゴルフ場
竹房マレットゴルフ場
信州新町ふれあい公園
ふれあいひろば津和の里マレットゴルフ場

フィッシング

幻のイトウや人気の高いイワナ、大型のニジマスが釣れるスポットが点在しています。また柳久保池ではシナノユキマスが釣れるスポットとして注目されています。

お問い合わせ：犀川殖産漁業協同組合
TEL026-262-2212



ラフティング

犀川のところどころにある急流で、ラフティングが体験できます。ジギスカンランチと温泉がセットのラフティングスクールで自然の荒々しさと雄大さを体験してみたいかですか。

開催期間：春～秋
（小学4年生以上参加可※小学1～3年生は保護者同伴の場合のみ可）
お問い合わせ：TEL026-258-2978（サンデープランニング）



不動滝

当信川流域の相室溪台にある滝のひとつです。上下2段をなし、下滝の近くまで行くことができます。かつては結氷の状態によって作物の豊凶を占う重要な滝であったと伝えられています。温泉がこの麓から湧出し、「信州不動温泉」さざり荘があります。



信州新町菅沼出身の彫刻家、宮尾応栄（まごよし）氏が、南太平洋カリリン群島のメレヨン島で戦死した戦友の冥福を祈るために、昭和53年5月初旬に彫りはじめ、昭和57年10月17日の開眼法要まで4年5ヶ月ほどの歳月をかけ完成させた磨崖仏（阿弥陀如来）です。



琵琶滝如来

不動滝

琵琶滝如来

さざり荘

国道19号



①	道の駅 信州新町	TEL.026-262-2228
②	焼肉レストランむさしや	TEL.026-262-2822
③	ドライブインルート 19	TEL.026-262-2332
④	元祖ジンギスカン荘	TEL.026-262-2012
⑤	ろうかく荘	TEL.026-262-2309
⑥	フレッシュトップ 田中屋	TEL.026-262-2047
⑦	A コープ しんまち店	TEL.026-262-3429
⑧	食事処 ひはら	TEL.026-264-2331
⑨	信州不動温泉 さざり荘	TEL.026-264-2103

ジンギスカン街道



国道 19 号沿いにあるジンギスカン街道店舗をご紹介します。

信州新町を彩る
四季の花々



桜



ジャーマンアイリス
(上の平展望台)



カラー



あじさい
(あじさい街道)



わさびの花



1 km

インフォメーション

【宿泊施設】	
◆ ドライブインルート 19	TEL.026-262-2332
◆ ホテル新町	TEL.026-262-2125
◆ 信州犀川交流センター	TEL.026-264-2155
◆ 萩野高原森の家	TEL.026-264-2155
◆ 信州不動温泉さざり荘	TEL.026-264-2103
◆ 民宿つつみ荘	TEL.026-264-2325
◆ 民宿丸和荘	TEL.026-264-2315

【バス・タクシー】	
◆ アルピコ交通新町営業所	TEL.026-262-2023
◆ ひじり観光タクシー	TEL.026-262-2353

【公共施設等のご案内】	
◆ 道の駅 信州新町	TEL.026-262-2228
◆ 犀川殖産漁業協同組合	TEL.026-262-2212
◆ 信州新町屋形船企業組合	TEL.026-262-3700
◆ JA 長野厚生連 新町病院	TEL.026-262-3111
◆ 信州新町商工会	TEL.026-262-2138
◆ 信州新町郵便局	TEL.026-262-2042
◆ 信州新町美術館／有島生馬記念館／化石博物館	TEL.026-262-3500
◆ ミューゼ蔵	TEL.026-262-2500
◆ 更水医院	TEL.026-262-2027
◆ 信州新町交番	TEL.026-262-2029
◆ ながの農協信州新町支所	TEL.026-262-2300
◆ ハ十二銀行 新町支店	TEL.026-262-3182
◆ 新町消防署	TEL.026-262-5119
◆ 長野市信州新町支所	TEL.026-262-2200
◆ 信州新町観光協会	TEL.026-262-2245



小花見高原

大花見・小花見の2つの池が1キロの距離を隔てて点在しています。小花見池はバードウォッチングに、大花見池は静かな釣りに最適です。

アクセスマップ



大坂・名古屋から

JR の場合

大阪 → 名古屋 (新幹線 1 時間) → 長野 (中央線特急で 3 時間)
長野駅前 → 信州新町 (アルピコ交通新町大原線乗車 45 分)

マイカーの場合

名神高速小牧 I.C. → 長野道安曇野 I.C. → 国道 19 号で 50 分 → 信州新町

東京から

JR の場合

長野新幹線 (あさま) 東京 → 長野 (1 時間 30 分)
長野駅前 → 信州新町 (アルピコ交通新町大原線乗車 45 分)

マイカーの場合

中央道八王子 I.C. → 長野道安曇野 I.C. → 国道 19 号で 50 分 → 信州新町
関越自動車道練馬 I.C. → 上信越自動車道長野 I.C. → 国道 19 号で 35 分 → 信州新町



【お問い合わせ】

信州新町観光協会 (長野市信州新町支所内)

〒381-2405 長野市信州新町新町 1000-1 TEL.026-262-2245 FAX.026-262-4799

信州新町観光協会

検索

